

低中所得国における公衆衛生の改善に向けた食糧と栄養のための家畜と魚

Samuel Thevasagayam

ビル&メリンダ・ゲイツ財団畜産部門長



サミュエル・セバサガヤム氏は、プログラムの畜産ポートフォリオを率い、財団のアニマルヘルスや畜産関係の戦略事業を監督している。2012年にビル&メリンダ・ゲイツ財団に入る前は、製薬産業にて臨床開発、規制関係、事業開発、外部研究提携を担う。

同氏は、北米、欧州、および国際市場における医薬品やワクチン（ヒト及び動物用）の開発・登録の責任者を努めた。それ以前には、アニマルヘルス関連のNPO組織のGALVmedとの獣医・畜産学の国際連携に向けた研究開発でディレクターを務めた経験を持つ。キャリアの初期には、コンパニオンアニマル内科学の指導と実践に携わり、その後5年間、英国パーブライト研究所で獣医ウイルス学の研究を行った。

スリランカのペラデニヤ大学で獣医学及び外科学を学び、英国パーブライト研究所にて口蹄疫ウイルスの研究で獣医ウイルス学博士号、オックスフォード大学サイド・ビジネス・スクールにてMBAを取得。英国王立生物学会フェロー。

家畜と魚は世界の食料システムにおいて重要な役割を果たしている。特に貧困層や社会的弱者にとって、動物由来食品（ASF）が最も入手しやすく最も栄養価の高い食品の一つとなっている低中所得国（LMICs）においては、さらに重大である。加えて家畜と魚は、生計をそれらに依存している人々に経済的流動性の機会を提供し、女性の経済的エンパワーメントの強力な手段として機能し、家庭における食生活の多様性を改善させる。家畜と魚は、環境の持続可能性、薬剤耐性、動物由来食品（ASF）と加工食品の消費に関連した健康障害にとって大きな脅威であるとも考えられている。

ビル&メリンダ・ゲイツ財団は「すべての生命には等しく価値がある」という信念に基づき設立され、「すべての人が健康的で生産的な生活を送る機会を得られる世界」に貢献することを使命に低中所得国（LMICs）における農業開発プログラムで畜産と水産養殖に取り組んでいる。本講演では、グローバルヘルスの改善に向けた食糧と栄養のための畜産と水産養殖の可能性を実現するために、家畜と魚がもたらす課題に取り組みつつ、私たちがどのようにパートナーたちと協力しているかについての事例を紹介する。家畜と魚に投資し、負の影響を軽減する機会として検討するケースを強調する。